愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	宗教と社会		
担当者(Instructors)	宇田川 千帆	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本授業の目的は、私たちの生きている社会と宗教とのかかわりについて学ぶ。宗教についてどのくらい知っているだろうか。どのように受け止めているだろうか。宗教にたいする誤解から理解へと深め、これから幅広い分野で活躍する人材として、多文化社会における他者への理解ある、思いやりのある心を養い、自分自身への探究心を持ち、今世を生きていくための視座を持つための材料を提供したい。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義だけでなく、さまざまな映像を用いた授業をする。コメントペーパーや、グループディスカッションなどを通じて、いろいろな感じ方、考え方をお互い学び合えると良いと思う。出席は大切にする。各回のテーマは順番や内容が変わる場合があります。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	私たちの生きている社会と宗教とのかかわりについて	なぜ、社会と宗教のかかわりを学ぶ必要があるのか。本授業の目的と到達目標を説明する。（テキストは持参する必要はありません。）	□
第2回	映画の中の宗教	映画作品における宗教について考える。	□
第3回	音楽の中の宗教	音楽作品における宗教について考える。	□
第4回	日本人の宗教性と世界における宗教	日本は無宗教、宗教アレルギーであると言われるが、世界はどうなのか。	□
第5回	宗教と社会貢献①世界　『聖者の食卓』より	1日10万食。300人のボランティアによるインドの無料食堂。	□
第6回	宗教と社会貢献②世界　マザーテレサより	マザーテレサの奉仕活動について。	□
第7回	宗教と社会貢献③日本　釜ヶ崎のシスターより	日本における宗教の社会貢献について。	□
第8回	宗教と社会貢献④日本　天理教の里親活動より	さまざまな事情で家族と離れて暮らす子どもを迎え入れる活動について。	□
第9回	宗教と日本の教育	日本人は宗教を知らないのか。教えられていないのか。	□
第10回	青年期のスピリチュアリティ	神経心理学が明らかにする青年期のスピリチュアリティと脳の発達について。	□
第11回	中学生へのアンケート調査結果より	宗教教育を行える私立中学校と、道徳教育を受ける公立中学校へのアンケート調査の結果について。	□
第12回	さまざまな信仰を持つ人へのインタビュー①	信仰をもつ人は、どのように日常生活を生きているのだろう。	□
第13回	さまざまな信仰を持つ人へのインタビュー②	自分とは異なる信仰を持つ人びとを理解するということ。	□
第14回	まとめ	授業のまとめとして宗教について何を学んだか、どのような視座をもつことが出来たかを確認する。	□
第15回	テストとテストの解説	授業内にテストをしてその解説をします。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事後学習（2時間）として、授業の内容を振り返り、日常生活におけるあらゆる面（自分の生活している場所、映画、音楽、本、インターネット、新聞等）で、どのように宗教が関わっているのかを感じ、考える。自分自身がどのようなフィルターを通して世界を見ているのかを意識して生活する。疑問に思うことは積極的に調べ、質問する。また、授業前に前回の内容を振り返る（２時間）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

コメントペーパーを毎回提出する。翌週フィードバックし、質問に答えたり、共有したりする。出席とコメントペーパーの内容を重視する。暗記したり、難しいレポートは課さないが、授業を真面目に受け、真面目に思いと、言葉と行動で表現すること。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	私たちの生きている社会における宗教とはどのようなものかを理解するための素地を作る。多様な文化的背景を持つ人びととの出会いの中で、理解と優しさを持ち、これからの自分の人生における視座をもつこと。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			30%	70%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の出席やコメントペーパーを重視する。授業内試験。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	『宗教なしで教育はできるのか』聖心女子大学キリスト教文化研究所編、2013年、春秋社。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	『グローバル化時代の宗教文化教育』井上順孝著、2020年、弘文堂。	
2	『震災復興と宗教』　稲葉圭信・黒崎浩行著、2013年、明石書店。	
3	『宗教信仰復興叢書1　宗教信仰復興と現代社会』島薗進編、2022年、国書刊行会。	
4	『進化の意外な順序　感情、意識、創造性と文化の起源』アントニオ・ダマシオ著、高橋洋訳、2019年、白揚社。	
5		